

寺殿前濃州太守國文宗安大居士ト云也、成頼ノ子頼繼家督ヲツギ、在京シテ將軍義政公ニ隨仕シ、添クモ御名ノ一字ヲ賜リ、美濃守政房ト申ケル、其子左京大夫頼繼太守ナリシガ、弟土岐治郎頼藝ニ奪ヒトヲル、此頼藝迄ニテ守護職ノ家系斷絶ナリ、頼藝ノ子數多有ト云、皆チリノニ成給ヒケリ、

〔江濃記〕齋藤ガ事

美濃齋藤、元ハ越前ノ住人、利仁將軍ノ末葉也、代々美濃國革手ノ城主也、土岐ハ屋形、齋藤ハ守護代也、然ドモ、前代ノ時ハ、土岐齋藤トテ、國人モ一雙ノ様ニ思ヒシ也、元弘ノムカシニモ、土岐頼員ハ、齋藤利行ガ聟也、其後高氏ノ御代ト成テモ、齋藤猶美濃ニ繁昌也。○中略

土岐殿齋藤不和之事

其比美濃國大桑ニ御座土岐頼藝ノ代ニ成テ、道三ガ威勢ツノリ、一國平呑シテ、土岐屋形ノ威ノヲトロユル事ヲイカリ、道三ヲホロボシテ國ヲ治メント謀リ、忽ニ道三ト不和ニ成リ、合戦數度ニ及ビケリ、然ドモ道三合戦ノ道ニヲイテハ、近國無雙ノ大將ナレバ、誰カ是ニ向テ勝利ヲ取ルベキ、終ニ土岐殿打マケ、尾張國ヘヒラキ給ヒ、齋藤ハ土岐殿ヲ追出シ奉リ、一國不殘治メケリ、

〔倭名類聚抄見國郡〕美濃國

○中略程上四日、下二日。

〔伊呂波字類抄見國郡〕美濃國

○中略管十八不破延喜式

〔拾芥抄中末朝國郡〕美濃近十八郡

○中略不破府

〔新撰美濃志不破郡〕府中村は垂井の北にあり、和名類聚抄に、美濃國國府在不破郡とするし、源平盛衰記の治承四年、維盛以下の軍勢東國下向の條に、九月三十日、みの、こうにつく、十月一日、同じく國すのまたにつくと見えしはこ、にて國司官廳の地を、國府とも府中ともいへるは、異國唐朝の制と同じ例なり、